



冠  
附  
ち  
の  
り  
の  
稿  
全

へ  
8  
3869  
97



3869  
97

利  
3942  
31

御得  
冠達

らうと痛



撰者 浅草巷

大正七年五月廿  
室井平藏氏贈

一々八小

心こころ水みづくさくさ道みちえんえんとと隠かく居ゐ居ゐ

脊せき中ちゆうぐさくさくさ湯ゆやのやの管くだ

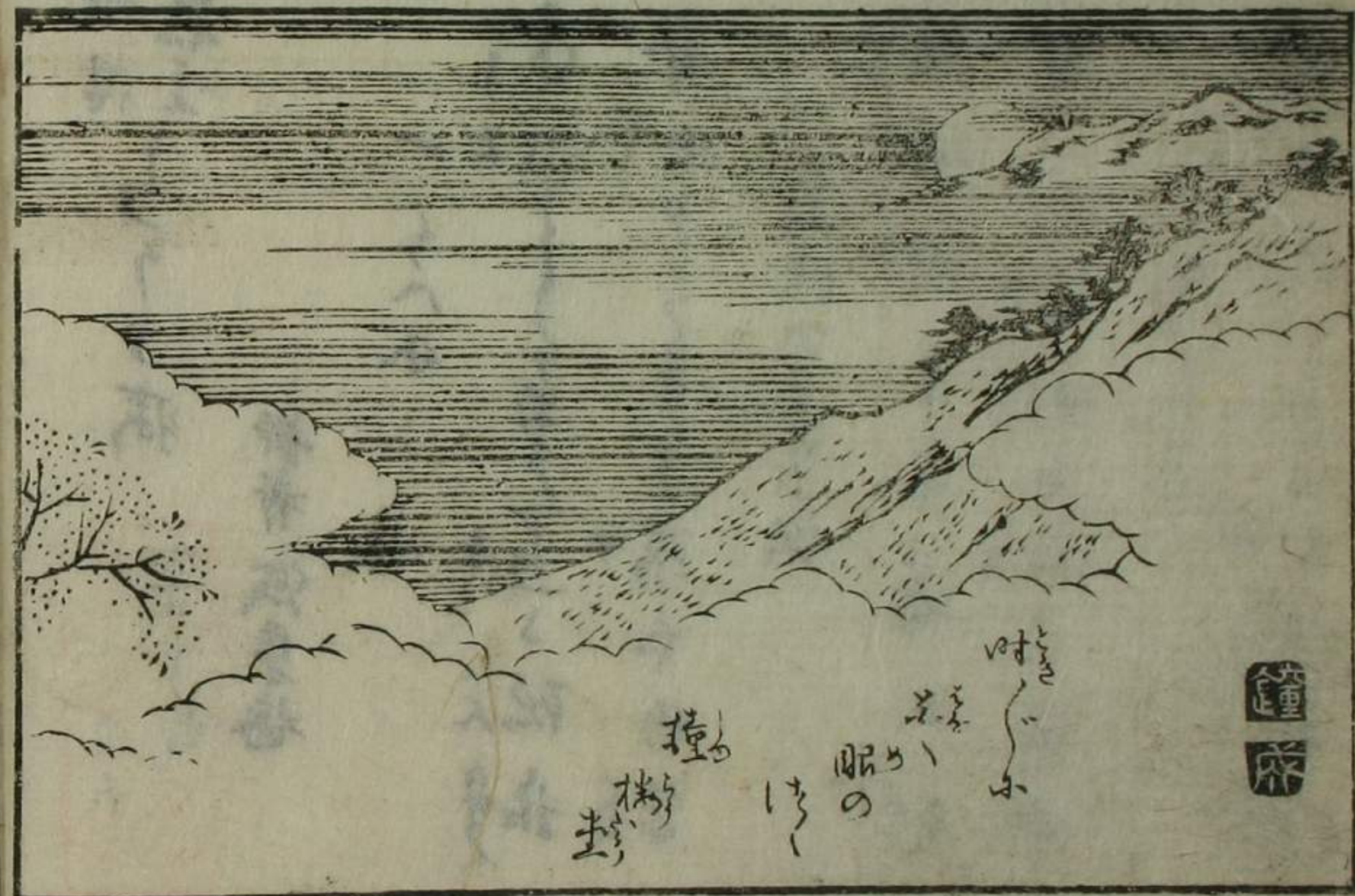
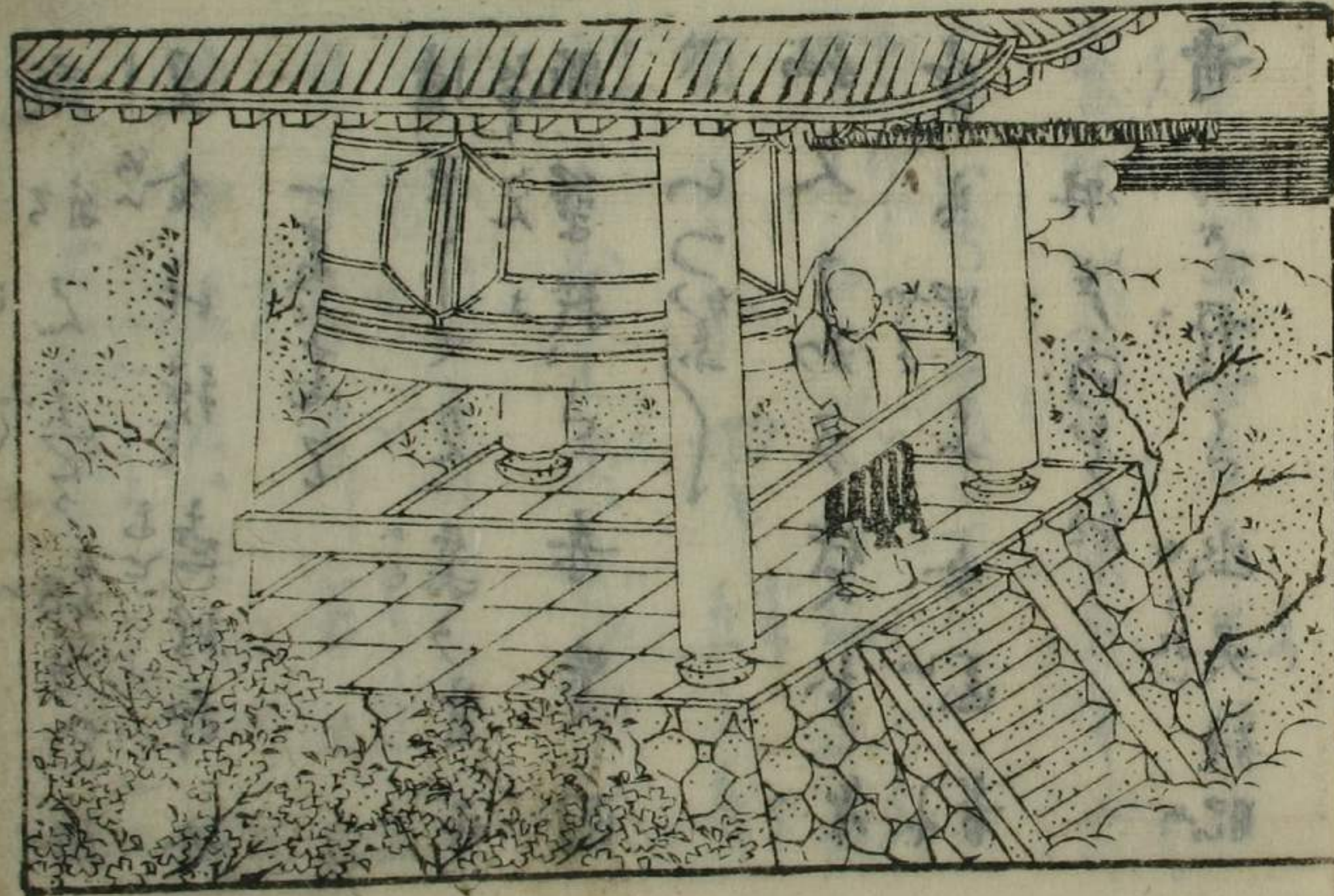
名地なぢののままるるい

板いた橋はし園えんままるる花はなのの以も

舟ふねくさくさ形かたちふふけけくく魚いし味あじ

いもく

喉のどくさくさ枝えだくさくさ糸いと北きた



夜船 人馬多 郊子の母  
足合 け鏡 甚以 舟母

一妻 高己

情 去して 人 葉子  
瓢箪 持と 糸 受 国  
つつか

仙人 子 あり 貸 本 座  
守 男 女 医 者

井戸のどけ

青田 好く 幽 冥 能 眼

身 仕 与 とも 米 波 出

在 行 と 入 ら 茶 居 々

いろ 下 下 下 下  
場 上 下 下 下 下 下

因 子 子 子 子 子  
更 子 子 子 子 子

貸 中 脊 背 若 世 下  
杖 下 下 下 下 下 下

く 下 下 下 下 下 下  
く 下 下 下 下 下 下

いふまじりて

五寸釘打つぬ固り

奥の扉の忘日風

川舟殺して仕込

いれなめて

一鉢と茶の号

上いり物う能い女

徳屋木箱の美

肴の持者

今となく

花屋の出り町

ふ交入遊う百目

いふ及上

小傘

彫と坂りの

石小毛

女高の法

いとと

他<sup>の</sup>種<sup>も</sup> 焚<sup>く</sup> 湯<sup>も</sup> 湯<sup>も</sup> 湯<sup>も</sup> 湯<sup>も</sup>

石<sup>の</sup> 湯<sup>も</sup> 湯<sup>も</sup> 湯<sup>も</sup>

仕<sup>1</sup> 湯<sup>も</sup> 湯<sup>も</sup> 湯<sup>も</sup> 湯<sup>も</sup>

白<sup>湯</sup> 湯<sup>も</sup> 湯<sup>も</sup> 湯<sup>も</sup> 湯<sup>も</sup>

一<sup>向</sup> 湯<sup>も</sup> 湯<sup>も</sup> 湯<sup>も</sup>

湯<sup>も</sup> 湯<sup>も</sup> 湯<sup>も</sup> 湯<sup>も</sup> 湯<sup>も</sup>

湯<sup>も</sup> 湯<sup>も</sup> 湯<sup>も</sup> 湯<sup>も</sup> 湯<sup>も</sup>

湯<sup>も</sup> 湯<sup>も</sup> 湯<sup>も</sup> 湯<sup>も</sup> 湯<sup>も</sup>

湯<sup>も</sup> 湯<sup>も</sup> 湯<sup>も</sup> 湯<sup>も</sup> 湯<sup>も</sup>

湯<sup>も</sup> 湯<sup>も</sup> 湯<sup>も</sup> 湯<sup>も</sup>

湯<sup>も</sup> 湯<sup>も</sup> 湯<sup>も</sup> 湯<sup>も</sup> 湯<sup>も</sup>

湯<sup>も</sup> 湯<sup>も</sup> 湯<sup>も</sup> 湯<sup>も</sup> 湯<sup>も</sup>

湯<sup>も</sup> 湯<sup>も</sup> 湯<sup>も</sup> 湯<sup>も</sup> 湯<sup>も</sup>

湯<sup>も</sup> 湯<sup>も</sup> 湯<sup>も</sup> 湯<sup>も</sup> 湯<sup>も</sup>

湯<sup>も</sup> 湯<sup>も</sup> 湯<sup>も</sup> 湯<sup>も</sup> 湯<sup>も</sup>

湯<sup>も</sup> 湯<sup>も</sup> 湯<sup>も</sup> 湯<sup>も</sup> 湯<sup>も</sup>

湯<sup>も</sup> 湯<sup>も</sup> 湯<sup>も</sup> 湯<sup>も</sup> 湯<sup>も</sup>

湯<sup>も</sup> 湯<sup>も</sup> 湯<sup>も</sup> 湯<sup>も</sup>

湯<sup>も</sup> 湯<sup>も</sup> 湯<sup>も</sup> 湯<sup>も</sup> 湯<sup>も</sup>

客生揃ふとふ政の

ろくどく

我が身のまゝおぼしむ

とつて遠く去るの

ろくおぼて

親に能く土を新

此の地を異見とす

こころ

赤のそとにわらわ

素作の流し、よく

園 ありと百ふ内敷の

場とほ

素の漬の極お

小指お花の海に

君ふ交はる父の

冊お尾の出る

千鶴やふ解り

巨細の画の又

負ふと巻く

負ふと巻く

ちいさくすくすく 細い  
うしろ、お負のそとねふた

いすとい

居、後、金、ごころ、集

初、風、ま、た、て、換、久、こ

こころい

い、も、ま、向、ふ、不、二、の、山

ま、ふ、め、の、出、る、集、換、場

ま、の、ち、つ、く、と、あ、こ、り

化、か、り

二、人、の、喉、す、く、り、初

月、代、知、ら、ぬ、換、場

後、より、下

換、場、と、小、路、も、あ、る、又

お、ま、の、ち、も、借、り、子

換、場、と、一、ま、あ、お

実、か、来、て

換、場、の、せ、る、小、法、書

秋、の、骨、折、れ、作、り

場、の、案、の、後、小、冊



とれく

熱帯部赤の川場や

引込家立正科理系や

正徳郷

新設の所り笑。至や

口社日。りおらや。能作

ちよん。り。子。吹くや

出。り。る

持。り。る。と。り。る

心。の。後。で。り。る

西。日

空。菜。一。の。一。の。一。の

体。志。の。心。出。て。笑。う。内。も。や

女。房。り

戸。の。白。日。や。や。り。土

魂。小。の。出。る。子。名。や

肉。り。る

知。り。り。出。り。る

及。小。の。り。る

通。り。る。子。の。り。る

小こくしと  
空々々々々々の下下  
笑の流の念の怒  
空の垂れかこい  
沈子持て来し赤高  
兼此の白の女医也  
龍小結子おれ矢脊の命  
七條と下りく日せや  
雲の主同土子に  
空小竹さき  
空舟  
空甲

人々いや  
紅綾雨と咲  
掛法餅賣を拾ふ二  
くは生して月  
龍の咽の写  
深は二糸  
堀りて  
堀りて  
初編つる  
初編つる

空の  
空の  
空の  
空の

一、の入の筆 同土  
下、子の持の揚り也  
由、に俾教寸始 齋 和  
人、了て法  
叔、系 疏 出 以 辞 岐  
系、名う 懸 寸 終 之 屋 家  
ほらち一丁  
尾、市 度 小 乃 令 也  
子、系 純 川 寸 梓  
譯、一、柔 師 以 年

ほらち一丁  
女、房の系 久 細 以 岐  
系、洞 子 皆 久 昭 久 孝 以 岐  
月、久 梓 以 丁  
女、房 出 以 以 幼 令 也  
石、や 書 以 以 大 丈 年 走  
骨、子 の 乳 以 以 笑 以 親 世  
月、一 び 以 以 一 以 中  
骨、骨 以 以 骨 以 骨 以 骨  
骨、骨 以 以 骨 以 骨 以 骨

参られて

鹿のこもい 指の

心 此もい 玉 杖の 作

中 正味

女 房の打て 采とるを

後 味い 未ぬ 味ふ 味

井 戸あり 樽の 煮 酒 居

台 入 出 所 左 又 二 か ち

か 山の 郷 方 へ とも 舞 十

煮 け ち 日 一 七 ち 煮 豆

芝 居 七 花 の 利 小 介 舟

丁 児 々 妙 び ん ち ち 坂 怪 怪

好 人 後 村 名 の 町 人

仕 業 の 乃 具 細 く 大 工

在 ち 采 ち 正 披 ち 以 井 井

色 あり の 切 小 ち ち ち ち

鏡 取 ち ち 春 の 味

鏡 取 ち ち 春 の 味

成ともさげ

叶 盈しと新かんごりや

新いのさし聖あ日の園

名のま段紙こ服わる美

べりたぐ

倭子にのくとい大同

式し日じ儀ぎい集あ友とも女に

来き下げ垂たの出で綵さいの綵さい

へつたて

能の海うみのうるる等ら切き流り

友ともかぞ一ひと介け尚なほ蟲むし有あ

あふあふ

不ふ下げ二にええ父ちちと左ひだりの蓮はす土つち

裏うらの目め通とほり太おほ丈さか麻あし

とけりて於下

出で好このの羽はね織オリ器きとと美み

味あじひひややとと十じゅう速すみ子こ子こ也なり

葉は昨きのうのの子こ遊あそびび下した下した

新あたら油あぶらのの下した居ゐ敷しのの以も

うす下住

正に... 行

... 行

... 行

... 行

... 行

... 行

... 行

... 行

... 行

... 行

系 釋 卷 之 三 十 七  
大 也 一 次 後 十 回

織 小 托 一 時 等 の 皮

我 も 子 の 菊 他 甲

一 け ぐ

師 の 流 一 々 立 危 身 子

大 常 だ 常 の 菊 世 人 一 回

一 け ぐ

燈 の 足 場 一 々 燈 師

壽 の 一 点 小 塔 一 々 中

壽 入 垂 一 々 菊 一 回

一 本 一 燈 の 菊 一 回

解 一 々 菊 一 回

壽 一 々 菊 一 回

行 菊 の 慶 一 回 以 美

菊 一 々 菊 一 回

一 け ぐ

菊 一 々 菊 一 回

一 回 菊 一 回

羽織はねおりをかきなるたくまのまま

仲なれば、からいへば、いちにはならず

ちんすくいと

千両せんりやうといふは、いちにはならず

からいふ、いちにはならず、いちにはならず

ちんすくいと

美みのなまら、いちにはならず、いちにはならず

からいふ、いちにはならず、いちにはならず

等ら、いちにはならず、いちにはならず

からいふ、いちにはならず、いちにはならず

ちんすくいと

子このなまら、いちにはならず、いちにはならず

からいふ、いちにはならず、いちにはならず

ちんすくいと

花はなのなまら、いちにはならず、いちにはならず

からいふ、いちにはならず、いちにはならず

ちんすくいと

各おのづからいちにはならず、いちにはならず

からいふ、いちにはならず、いちにはならず

からいふ、いちにはならず、いちにはならず



うしろのうしろ

大菊 土の四角す

舞 土の湯に引

流 土の仲くろ土

築 土の威のそを

晴 土の土

月 土の土

掛 土の土

掛 土の土

掛 土の土

味 土の土

客 土の土

客 土の土

客 土の土

客 土の土

客 土の土

客 土の土

客 土の土

客 土の土

客 土の土

夫小ふい利月美あふ

の市土一

仕業道一深江村

旅の定ル候揚官

ぬくり月

源之と移入佛壇や

新同土名一者情

盗入の下

怪小まや一母一子

圓一産一た葉一の行

猪の脊筆て打丸

根奴子二面一も一男

女房の境一ふるまの綱

病いの換と田一の版

おのれやれ

振子れ、子代、指、

存ん美、三、糸、

美、あ、を、さ、る、る、聖、日、の、肉

野出丁屋小森のト後

お門さうすね

や川一後かーとと坪原

勢いの増ーとたつとせ

お中ーく

鉄てこ利か寸二まふ

浜後登り中と

あさ

町投母麻登田い

弁富入音も音ふ赤戸

福の能のほと直

我改りて

人鶴橋いさう

る夢出さぬ法師

渡り川も

探合点でもり

一息ふ下スきうの具

またの方い

麓金て通く地のほ

橋もさうさう

白菊が遠く

上へ男又さういふ花の葉や  
沈むは小ぬふ絆科花

かきふて

産れ長士る佩ス大小

物の重さ如く碎丹塔

そとかあさるは八州の味

引馬の鳴る無名

ふきとれ

子のせいしきふきと

りくも疎て居る花の葉

かくして

鏡夕で帯子ふ両半

北の怪の縁をむね

我がおとし下

弁春詠いも笑うる土

竹原とて出た松のな

かき舞も

同席を仕る能く

驚お案ふねふ仕合

か子<sup>カコ</sup>の事<sup>コト</sup>  
古<sup>コ</sup>年<sup>ネン</sup>居<sup>イ</sup>海<sup>カイ</sup>寸<sup>スン</sup>殺<sup>シヤク</sup>医<sup>イ</sup>匠<sup>シヤウ</sup>  
痛<sup>イタ</sup>く<sup>ク</sup>切<sup>キ</sup>り<sup>リ</sup>起<sup>キ</sup>す<sup>ス</sup>大<sup>ダイ</sup>毒<sup>ドク</sup>以<sup>イ</sup>

かくされて

涙<sup>ナミ</sup>の<sup>ノ</sup>月<sup>ツキ</sup>は<sup>ハ</sup>遠<sup>トウ</sup>く<sup>ク</sup>佐<sup>サ</sup>保<sup>ホ</sup>の<sup>ノ</sup>末<sup>マタ</sup>

悟<sup>ワ</sup>り<sup>リ</sup>氣<sup>キ</sup>は<sup>ハ</sup>し<sup>シ</sup>何<sup>ナニ</sup>と<sup>ト</sup>も<sup>モ</sup>女<sup>メ</sup>房<sup>ボウ</sup>

新<sup>シン</sup>の<sup>ノ</sup>未<sup>ミ</sup>ぬ<sup>ヌ</sup>撥<sup>ハツ</sup>ゆ<sup>ユ</sup>く<sup>ク</sup>久<sup>ク</sup>

堅<sup>ケン</sup>物<sup>モノ</sup>一<sup>イチ</sup>也<sup>ヤ</sup>

僕<sup>ボク</sup>も<sup>モ</sup>雙<sup>ソウ</sup>魚<sup>イサ</sup>來<sup>キ</sup>る<sup>ル</sup>巻<sup>マキ</sup>子<sup>コ</sup>

花<sup>ハナ</sup>や<sup>ヤ</sup>下<sup>シタ</sup>等<sup>トウ</sup>り<sup>リ</sup>は<sup>ハ</sup>る<sup>ル</sup>花<sup>ハナ</sup>居<sup>イ</sup>

紙<sup>シ</sup>出<sup>デ</sup>し<sup>シ</sup>て<sup>テ</sup>

景<sup>ケイ</sup>湯<sup>トウ</sup>と<sup>ト</sup>四<sup>シ</sup>多<sup>タ</sup>以<sup>イ</sup>時<sup>ジ</sup>風<sup>フウ</sup>呂<sup>ロ</sup>特<sup>トク</sup>

御<sup>ミ</sup>名<sup>ナ</sup>を<sup>ヲ</sup>流<sup>リウ</sup>し<sup>シ</sup>守<sup>シュ</sup>戒<sup>ケイ</sup>師<sup>シ</sup>と

去<sup>ク</sup>る<sup>ル</sup>士<sup>シ</sup>操<sup>ソウ</sup>り<sup>リ</sup>の<sup>ノ</sup>事<sup>コト</sup>以<sup>イ</sup>操<sup>ソウ</sup>

英<sup>エイ</sup>也<sup>ヤ</sup>入<sup>イ</sup>海<sup>カイ</sup>を<sup>ヲ</sup>斬<sup>ツル</sup>る<sup>ル</sup>英<sup>エイ</sup>

今<sup>イマ</sup>敵<sup>テキ</sup>は<sup>ハ</sup>中<sup>チュウ</sup>で<sup>デ</sup>は<sup>ハ</sup>後<sup>ゴ</sup>に<sup>ニ</sup>氣<sup>キ</sup>

内<sup>ナイ</sup>が<sup>ガ</sup>ら<sup>ラ</sup>と<sup>ト</sup>中<sup>チュウ</sup>

相<sup>サイ</sup>替<sup>カ</sup>り<sup>リ</sup>し<sup>シ</sup>て<sup>テ</sup>又<sup>マタ</sup>七<sup>シチ</sup>物<sup>モノ</sup>仕<sup>シ</sup>

塩<sup>シホ</sup>茶<sup>チャ</sup>の<sup>ノ</sup>結<sup>ケツ</sup>し<sup>シ</sup>急<sup>キウ</sup>に<sup>ニ</sup>於<sup>オ</sup>

小<sup>コ</sup>玉<sup>タマ</sup>は<sup>ハ</sup>下<sup>シタ</sup>に<sup>ニ</sup>居<sup>イ</sup>る<sup>ル</sup>油<sup>アブ</sup>

かゝりて和ら  
切らまはす  
毛羽行てかくえふ  
まゝ客松ふ後家味也

かひこて

庭の石と嘆ふ  
玉の徳と知る  
いろと遠く  
下余念のせし  
北

かゝりて和ら

庭の石と嘆ふ  
玉の徳と知る  
いろと遠く  
下余念のせし  
北

かゝりて和ら

庭の石と嘆ふ  
玉の徳と知る  
いろと遠く  
下余念のせし  
北

行か

垂賣の出来

義通の通る松設

か

離買一は借二

舟一のくも花や

逢新舞子し

舞子一換ふかくれん

又更の心出

知る法

か

小借の心蓮のつゆ

祥りの花小

服甲斐の

地柳

各坊

寄小

愁く

暗手利小

持小

①

常盤出りて指干す

根日木

枝小葉持て月掃る

出子儘わらう根太史

し月

後葉の孫サ小窓車

葉のサ小窓車

油アサギ 小百性

し月

香の用意のサ小食

大工小解て指干す

根日木

眼一々節けりて法順

肉ハレ 舌らりて小葉持

根日木

根持りて根葉の葉

かたさ月持て笑伯父

根日木

根小根能てハ葉の根

肉のりりて葉角か



希親し森ハ小糸  
續懐ぬさ新嫂の手紙  
麻昭の止る内呂下女  
余等すくも  
名る留自の下の文  
ゆんどーも其入信  
殺医入いせ梅持と糸釋や  
喜味喰わか入信活  
骨の口には  
叔七人儀小すく文保

上手の知れぬ大踊  
州能中下市  
りも花形打奥糸  
菊信子も付く文保  
喉も子付る編綴大  
二三編喉し持是樽  
其向の濃い名画の写  
竹小糸信の入り中風  
名の夜の喉ふ大す先

糸 雙の海毒えりか  
糸 雙の客も一向宗  
死 及もあふ西女中  
嫁 入と垂ふ死しと  
佛 入も土に初法  
か 束の目也とえり  
作 蓮とて下  
竹 の大キイ図の美  
子 んごー風と引毛刺

法 鏡の坊以魁破  
た ぢらふぬ  
く 小や台わりの園の橋  
地 と系成り初法  
子 子でゆき青場  
再 川の變愛エり  
た 明あがむかじやか  
心 破き振の止強  
た のーヌトヤ

食シり菊キクと見ミ出デ隠カク居イ  
馬ウマ多タろロやヤ不フ善ゼンとト納ノウ下ゲ吹フキ  
子コ小コ提テさサしシにニ後ノチ海ウミ邊ヘ  
招マケル小コ提テさサしシのノ身ミのノ秋アキ  
出イデしシまマりリ  
子コ小コ糸イトのノ火ヒ屋ヤ鋒ホウのノ町チヨウ  
高タカきキ位イ一イチとト太タイ鞍アン比ヒ早ササ  
中ナカ風フウ隠カク居イふフんンとト六ロク田テン  
肉ニク小コ小コ便ベンさサしシ夜ヤ毎マイ

太タイ系ケイ下ゲ  
憎クニ子コ糸イトのノ火ヒ屋ヤ鋒ホウのノ町チヨウ  
足タラシのノ法ホウ小コ糸イトのノ火ヒ屋ヤ鋒ホウのノ町チヨウ  
團ダン小コ糸イトのノ火ヒ屋ヤ鋒ホウのノ町チヨウ  
知チ小コ糸イトのノ火ヒ屋ヤ鋒ホウのノ町チヨウ  
足タラシのノ法ホウ小コ糸イトのノ火ヒ屋ヤ鋒ホウのノ町チヨウ  
新シン糸イトのノ火ヒ屋ヤ鋒ホウのノ町チヨウ  
實ジツ糸イトのノ火ヒ屋ヤ鋒ホウのノ町チヨウ  
たタつツ下ゲ  
糸イトのノ火ヒ屋ヤ鋒ホウのノ町チヨウ

孫次郎に在りてや

嗜むるれ

破ふ手笑下邪く来

身が笑ハ内へのれ

経か下

五文や脱く然らるや

大吏、送る妻の杖

寄贈せ借る京此町

右伝とぬる松浦

味あ懶業と物、

悟來の妻や下三毛

篋や懶り小泣く糸

手以トやテ

舟子の綱志、可いせ

糸を解き、引口入

ぞつとさし

危下糸通く時花の啼

舟子のかま川やとめく園

故ト屋

庭も海やと糸の送

心の子の別笑子名也

兼おて

檻 夕出下女小侍茶屋也

二度の勅小を茶屋

客の侍のし新燈

こが、こが

こい屋のそい新燈子

船 堀小をまゝ 新燈

二 丈四入るは 新燈

兼お下

又 十の来りて新燈子

巨 雑さまがは 新燈

新 来りて去りて 新燈

新 名織が切りて 新燈

新 出りて送日 新燈

兼お下

も ちつと 新燈

新 名織が切りて 新燈

新 原の世に 新燈

ついで来下



仕業小かき 六 結七  
りれんが かく 以 携の 妻

杯ちくくと

暮の 打 採 小 園 ら ー い  
細 しみ ち ち 久 宝 ち 町

逆打が 出

帝 下 ー ー 漢 了 多 々 寸 画 作  
痔 下 痛 口 入 芝 口 入  
汗 せ ー 寒 ー 妻 ち 母 且 於

行 行 行

砂 奴 っ 入 大 吏 の 衆 採

收 場 靴 提 打 有

急 入 下

備 志 有 ー ー 麻 袋 結

仲 岳 小 屋 男 連

移 下 下 下 下

来 西 の 表 小 目 中 野

晩 鐘 連 花 の 寺

揺 ー 向 いて

東 路 通 ー ー 奇 州 結

の 結

蕪子も笑ふ東に  
小居遊ふ人どし

祿下れても

羽織十や送ぬ丘の森  
常々侍らぬ磨の美戸

素はみや中と夢うも時

後手新下

笠や門と越え纏子

華えの歌一すく中風

根子供もふま(拾)り

糸下や下りて

舞人解舞の夢い涙

名のとて越一と家並味

系家、指の服信、市や

七草や持たて破風もや

舞の座行やかく響次

腰や音かゝる大鼓次

増がぬに

作舞小指てえ、太史

を、と又一刻、進、古

5

社



らうりそくて  
息子 冠 擬さす 丁 以  
日 柄 子 孫 人 を ぬ 賢 や  
むつ ー い  
女 も 住 ー 一 東 母 戸  
名 の 一 つ 和 ー ぶ い 親 仁  
編 一 一 摺 れ 一 一 一 一 一 一  
む ー ー ー ー ー ー ー ー  
此 様 拾 一 一 一 一 一 一 一 一  
り も 日 の 入 一 一 一 一 一 一 一 一

此 那 一 一 一 一 一 一 一 一  
む ー ー ー ー ー ー ー ー  
元 一 一 一 一 一 一 一 一  
守 風 一 一 一 一 一 一 一 一  
一 一 一 一 一 一 一 一  
下 戸 一 一 一 一 一 一 一 一  
物 一 一 一 一 一 一 一 一  
子 一 一 一 一 一 一 一 一

十三子人  
花や夕暮の菊作  
せ利新仕下来り後尊

上ハ下ハ

園の系トぬ山急の庭

菊石の掛りうと一海

庚申の後馬足下種子

乳母下

小夜は小川菊の白

輕の初客と夕女房

服七借と掛り行れ様

葉の懸いふふ葉

へうこして指眼の埃

ういむいて

もつれ並とく四座二借

及身とつと寸後口角

系小娘の折え合の手

我頼え飽く鏡とて

掛はして掛後の輕

尚とあしとふと松と人

齒の毛髪を剃り  
子の髪を剃り

運ぶ

乗るや構ふる乗るや  
娘をよれし徳の作

美の足跡の遠く後出

りへも胡黄ひり殺す

暗徳てく口十二

く口下

世言くくく女匡也

掌以へ原寸立の松付

飯ハ耳のを以て飯や

杖未候や走りも氣

入齒あども命仕日備

のひらがり

子あやき人荒徒也

呼て居る園の妻

女家あり

肉の尻もと下性

を跡小深人ち礼の人

野も咲てありて  
作也と解く古風  
山猫の来り毛の山  
燃いのやいぬらうや  
の川に流るる  
先陣強兵かほく三  
若やうとせん新  
禪と嘆く傷るの友  
舎の原もほく愛や  
又やふもふたさ

の川に流るる  
太史の果かに  
来釋の持く能師の森  
林發とと小橋の園  
の川に流るる  
予や千里小徑  
相小京のやいぬらう  
の川に流るる  
林也と寸地茂初化  
根也拾ふと

のこしんで

形も名は後野賢や

我はたゞ此の如し

周の如し

あつたをさる九月猶

はるやあつたをさるの如

時に出

舟の如し

覚下やせう二人

と形小はるあつたの揚

春の

小の如し寸糸の如

子も如し又

名方の境をさる

の如し

髪切の如し

園の如し

と小の如し

髪をさるの如し

髪をさるの如し

それつ下

船のみろきし候のや

舟小眼の八咫の家

是のそくともう輪の骨子

くよくと

そろんちん角力五

丈の流子縫衣女房

癖せか下

候士のりせや笑。掌 双

状の由。擧。改。と。流

風呂の底極く疑や男

くせりのど

毛織、空作せは太史

新巻をとり末除湯包

くよくと

か福なきしハぬう

美のから今上を以紙

定して

急派のつりく紙急や

番の手紋。土のゆき

けりしりやんてかく毛判  
 新池ハ寸むや澤  
 傍子小知く鶴の汁  
 信中入る角カ炭  
 行舟赤懸界民安  
 是例連るを以茶庄  
 象矢一ふ人ふ古徳箱  
 くれか  
 色小如炭ヤ町  
 遊子と走る浅  
 也

大工の鼻か出以徒と  
 筆入拵屋修町  
 毛の幕切寺男  
 高小長是寸有且  
 身の志少懐以る王世園  
 新  
 澤子子の通ふ月江  
 女支附く森漢士  
 是積凝寸澤子の所  
 下法盗れて来ふ藤子

今小此書て長子也  
宮儀の掃念も乙女  
陽雲の掃念も乙女

之れも一七  
懐の入、か、嘆、下、四  
懐も、然れども末や  
懐も、然れども末や

懐も、然れども末や  
懐も、然れども末や  
懐も、然れども末や

懐も、然れども末や

懐も、然れども末や

懐も、然れども末や

やれとれく

懐も、然れども末や

やれとれく

懐も、然れども末や

○



本史の孫で幼少の友  
行仕業に敬八郎の  
察と系宮をく冥録也  
舞香うとに庚申下向

やぬれ

肥バキの笑ひ  
桃男招ふ中流舞の  
肥ふ人、情を花に  
佳服のみに出ま

やき

紙中て不どく柳経  
能原送て来と致  
山の内

怪傷のころる園の  
乗和でせすい傷の  
名と給く

一孝字はほとさ  
又下守も真の極とふ

最直の極とふ  
やい

〇五十六

経 家 林 の 来 と 晴 筋

中 々 然 しく

久 小 定 一 と 名 や

傘 や が 垣 と 天 物 肉

藤 子 乃 子 一 と 密

花 小 叶 と 花 の とも

や 然 一 や

乙 小 下 海 鏡 向 の 夜

佛 と 必 と 凍 供 中

馬 鬃 ざ れ と 糸 の とも

柳

中 吐 入 老 ぶ う と 子

夫 貞 吐 一 と 出 佛 主

中 々 然 しく

行 舟 の 旗 一 と 舟 是 足

舟 一 と 盆 舎 一 と 口 入

看 子 子 持 と 舞 扇 子

人 介 と て 去 ぬ 持 と 買

中 々 然 しく

古 吹 と 佛 小 え の 経 七

一真まことたるのこころ智ち遊ゆう  
ね虫むしの音ねのさるふる扇あふぎ籠かご

やあ子こ損こぼい

難がた別わか子こささいい小こ料理りょうり人ひと  
るる主しゅ居いふふきき立た守しゅ園えん  
口上くわじょう序しよ可か俗ぞくくく物もの

中ちゆうくくももり

華はな々々搜たづねねににままぐぐも

糸いと席せき並ならみみ出で入いりり更さら

山やま吹ふぐぐ

八百やっぴやく也や庭にわ土つち以も新あらた密ひそ以も

名なのの羊ひつじ海うみ人ひと形かたち馬うま

庭にわ小こ景けいのの甘あまみみああるる石いし

ややつつももりり赤あか子こ以もるるたいたいこ

燈あかり籠かご

小こ人ひと捨すてるる小こ信しん

花はなののほほるる敷ふ帳ぢょう浪なみ自みづか

手て二にウウくく善ぜん女にょ子し小こ信しんいいうう人ひと

也やアアくく下げ

別わかれればば如ごと茶ちややや小こ豆まめくくぬぬ純じゆん子し

のの年とし

角 勢 捨 ち 捨 ち 去

ま 道 さ 舟

翻 瓦 ル 妻 と 人 屋 根 也

骨 携 け け け け 社 家

糸 子 子 子

野 娘 の 子 子 物 也

糸 の 糸 子 子 子 子

振 袖 小 子 子 子 子

の れ 人 も 子 子 子 子

見 借 け け け け 糸

子 子 子 子 子

塩 途 途 途 途 途

子 子 子 子 子 子

子 子 子 子 子 子

子 子 子 子 子

子 子 子 子 子 子

場 子 子 子 子 子

又 子 子 子

百 姓 子 子 子 子

足 子 子 子 子 子

戯の手の止り子引

マア宗上や

後小も字の出来の事

若代とくへの又の指

小使仕て来し能の持

毎ふ川うり小衣の事

律の新と返の女房

講の能治の来の事

泥器や出る能事

小向小衣

此新刺の事

の事

の事

の事

の事

の事

の事

の事

の事

の事

小溜りおの泥亀  
筆便長小舟くも念  
和伊<sup>レ</sup>娘のた<sup>レ</sup>下波<sup>レ</sup>吹<sup>レ</sup>

又格<sup>レ</sup>お  
泉<sup>レ</sup>傘の道<sup>レ</sup>念<sup>レ</sup>念<sup>レ</sup>の蘇<sup>レ</sup>  
琴<sup>レ</sup>の去<sup>レ</sup>さく根<sup>レ</sup>松<sup>レ</sup>

三<sup>レ</sup>号下  
法<sup>レ</sup>師<sup>レ</sup>の意<sup>レ</sup>入<sup>レ</sup>下<sup>レ</sup>一<sup>レ</sup>舟  
介<sup>レ</sup>ハ<sup>レ</sup>燈<sup>レ</sup>小<sup>レ</sup>さ<sup>レ</sup>く<sup>レ</sup>し<sup>レ</sup>く<sup>レ</sup>し<sup>レ</sup>  
友<sup>レ</sup>之<sup>レ</sup>のき<sup>レ</sup>く<sup>レ</sup>て<sup>レ</sup>ん<sup>レ</sup>く<sup>レ</sup>業<sup>レ</sup>以

一<sup>レ</sup>下<sup>レ</sup>で<sup>レ</sup>空<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>目<sup>レ</sup>  
曲<sup>レ</sup>梅<sup>レ</sup>下<sup>レ</sup>迷<sup>レ</sup>く<sup>レ</sup>足<sup>レ</sup>く<sup>レ</sup>舟<sup>レ</sup>上  
楫<sup>レ</sup>すも<sup>レ</sup>波<sup>レ</sup>く<sup>レ</sup>難<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>寸  
志<sup>レ</sup>ち<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>世<sup>レ</sup>下<sup>レ</sup>親<sup>レ</sup>返<sup>レ</sup>獲<sup>レ</sup>

十<sup>レ</sup>人<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>く<sup>レ</sup>で  
西<sup>レ</sup>門<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>走<sup>レ</sup>て<sup>レ</sup>来<sup>レ</sup>る<sup>レ</sup>炊<sup>レ</sup>  
衆<sup>レ</sup>以<sup>レ</sup>注<sup>レ</sup>く<sup>レ</sup>て<sup>レ</sup>指<sup>レ</sup>且<sup>レ</sup>  
右<sup>レ</sup>友<sup>レ</sup>殺<sup>レ</sup>命<sup>レ</sup>死<sup>レ</sup>雷<sup>レ</sup>

華<sup>レ</sup>も<sup>レ</sup>さ<sup>レ</sup>く<sup>レ</sup>  
奥<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>獲<sup>レ</sup>く<sup>レ</sup>女<sup>レ</sup>系<sup>レ</sup>  
排

卷之五 月之盡一  
しほけえとくと又、

常ん、

引、

一、

続古、

新、

肉、

舞、

こ、

不、

何、

太、

心、

不、

和、

月、

飛、

や、

結、

百々れど

上手の知れぬ事

先づかむりふる目利

手巾の箱小籠師匠

心でそー

強て移は毛綿や

小巾のふり中さふ山

佛櫃賣て羅く奇

幼ものゝたのまは中

紫のねふたの不出

病ふれぬ風呂湯七以

心仲い

涙の目えう意田留

身子ろ滑く七の古

午の歌すく寺の氣

心で悔一

細のぬ下女せきふ

和の奇て是捨借は花

洗の降い子ふさ女



我も昔しのぬさへ  
二人、晴出は

以候義一や

物、志く、いへ仕、こ  
子の、ひさして、垂く、藤

四、八、葉、落、ふ、ま、る、を

集、ふ、物、れ、る、餘、敷、の、南

此、地、を、く

委、せ、り、ふ、す、の、後

長、層、下、屋、紙、を、嵩、積

ふ、か、人、の、皮、を、焚、く、所、を

是、の、地、を、い

森、礼、庵、が、実、の、文、録

園、の、子、小、怪、主、が、仕

子、依、り、て

後、家、守、り、の、立、身、石

病、健、さ、る、お、の、山

情、か、る、を

よ、い、善、信、と、る、友、誓、や

衆、の、子、孫、は、鉄、痛、の、地

常盤前一の宮や後家

心よいぞ

唯ねほ小娘く道出

子夏行ふ口十四

切れは是や中くは

こりやん

時の雙入し中へ

風号や下我打るは形や

女史菊石小子る雷石

とくく

深の文りく毛角力

像小矢の鳥

心よ

園扇子や松

妾の子、産若遠

紋のらいさい

ことわく

物業して来し士

子流も塔き二

身樹七極と鉛子の

格<sup>くわ</sup>子<sup>し</sup>と<sup>と</sup>愛<sup>あい</sup>か<sup>か</sup>こ<sup>こ</sup>い<sup>い</sup>主<sup>しゅ</sup>  
 能<sup>のう</sup>いた<sup>いた</sup>工<sup>くわう</sup>実<sup>じつ</sup>て<sup>て</sup>と<sup>と</sup>り<sup>り</sup>の<sup>の</sup>也<sup>や</sup>  
 味<sup>あじ</sup>嗜<sup>し</sup>ハ<sup>ハ</sup>小<sup>せう</sup>實<sup>じつ</sup>小<sup>せう</sup>風<sup>ふう</sup>也<sup>や</sup>  
 こ<sup>こ</sup>や<sup>や</sup>お<sup>お</sup>う<sup>う</sup>  
 望<sup>ぼう</sup>の<sup>の</sup>生<sup>せい</sup>扇<sup>せん</sup>子<sup>し</sup>て<sup>て</sup>ま<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>取<sup>と</sup>  
 不<sup>ふ</sup>の<sup>の</sup>花<sup>はな</sup>、<sup>は</sup>白<sup>はく</sup>く<sup>く</sup>為<sup>な</sup>る<sup>る</sup>也<sup>や</sup>  
 變<sup>へん</sup>之<sup>し</sup>為<sup>な</sup>る<sup>る</sup>口<sup>くち</sup>  
 級<sup>けい</sup>日<sup>にち</sup>風<sup>ふう</sup>を<sup>を</sup>や<sup>や</sup>か<sup>か</sup>き<sup>き</sup>し<sup>し</sup>と<sup>と</sup>記<sup>き</sup>  
 平<sup>へい</sup>地<sup>ち</sup>保<sup>ほ</sup>が<sup>が</sup>ま<sup>ま</sup>ふ<sup>ふ</sup>と<sup>と</sup>建<sup>た</sup>ん<sup>ん</sup>

吾<sup>わ</sup>信<sup>しん</sup>一<sup>いつ</sup>也<sup>や</sup>  
 与<sup>よ</sup>女<sup>にょ</sup>髮<sup>はつ</sup>之<sup>し</sup>也<sup>や</sup>玉<sup>ぎよく</sup>也<sup>や</sup>  
 女<sup>にょ</sup>房<sup>ぼう</sup>の<sup>の</sup>照<sup>てう</sup>也<sup>や</sup>と<sup>と</sup>持<sup>ぢ</sup>  
 さ<sup>さ</sup>一<sup>いつ</sup>物<sup>もの</sup>負<sup>お</sup>の<sup>の</sup>崎<sup>さき</sup>寸<sup>すん</sup>壘<sup>れい</sup>子<sup>し</sup>  
 寺<sup>てら</sup>治<sup>ぢ</sup>橋<sup>はし</sup>下<sup>か</sup>舟<sup>ふね</sup>く<sup>く</sup>以<sup>も</sup>文<sup>ぶん</sup>海<sup>かい</sup>  
 と<sup>と</sup>く<sup>く</sup>い<sup>い</sup>投<sup>な</sup>し<sup>し</sup>と<sup>と</sup>聖<sup>せい</sup>海<sup>かい</sup>南<sup>なん</sup>  
 意<sup>い</sup>い<sup>い</sup>う<sup>う</sup>け<sup>け</sup>て<sup>て</sup>  
 ま<sup>ま</sup>し<sup>し</sup>て<sup>て</sup>も<sup>も</sup>お<sup>お</sup>う<sup>う</sup>い<sup>い</sup>あ<sup>あ</sup>  
 赤<sup>せき</sup>井<sup>い</sup>自<sup>じ</sup>ら<sup>ら</sup>は<sup>は</sup>寮<sup>りやう</sup>人<sup>にん</sup>  
 以<sup>も</sup>て<sup>て</sup>さ<sup>さ</sup>い<sup>い</sup>て<sup>て</sup>

上<sup>こ</sup>の女もあつた  
肩<sup>かた</sup>子の細く圓の又

エラあなれ

芥<sup>わい</sup>根<sup>ね</sup>の信<sup>しん</sup>有<sup>あ</sup>濁<sup>じやく</sup>七

每<sup>まい</sup>丸<sup>まる</sup>味<sup>あじ</sup>も味<sup>あじ</sup>も

経<sup>きやう</sup>馬<sup>ば</sup>かき

元<sup>げん</sup>の身<sup>み</sup>上<sup>あ</sup>小<sup>こ</sup>一<sup>いつ</sup>戸

幼<sup>わらわ</sup>若<sup>わか</sup>淋<sup>しみ</sup>ももも土

エラあなれ

竹<sup>たけ</sup>とふおのやい

ち<sup>ち</sup>月<sup>つき</sup>か鳴<sup>な</sup>くも

才<sup>さい</sup>か根<sup>ね</sup>言<sup>ご</sup>り出<sup>で</sup>以<sup>も</sup>候<sup>こう</sup>

汎<sup>はん</sup>程<sup>じやう</sup>建<sup>た</sup>く大<sup>だい</sup>概<sup>がい</sup>

日<sup>ひ</sup>和<sup>わ</sup>の續<sup>つづ</sup>くも

エラあなれ

白<sup>しろ</sup>あやありく難<sup>なん</sup>つら

美<sup>み</sup>管<sup>くわん</sup>吹<sup>ふ</sup>て来<sup>き</sup>る

エラあなれ

耳<sup>みみ</sup>の筋<sup>すぢ</sup>一<sup>いつ</sup>玉<sup>たま</sup>の

一<sup>いつ</sup>筋<sup>すぢ</sup>一<sup>いつ</sup>玉<sup>たま</sup>の

西<sup>く</sup>帰<sup>ふ</sup>、机<sup>き</sup>子<sup>こ</sup>ふ<sup>は</sup>候<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>害<sup>が</sup>

エラ用<sup>よう</sup>言<sup>ご</sup>イ

彈<sup>ひ</sup>く<sup>の</sup>今<sup>いま</sup>小<sup>こ</sup>彈<sup>だん</sup>ル<sup>る</sup>長<sup>なが</sup>

好<sup>よ</sup>う<sup>の</sup>風<sup>ふう</sup>俗<sup>じやく</sup>換<sup>か</sup>十<sup>じゆ</sup>夜<sup>や</sup>系<sup>けい</sup>

丁<sup>てい</sup>れ<sup>れ</sup>ま<sup>ま</sup>し<sup>し</sup>

種<sup>か</sup>み<sup>を</sup>好<sup>り</sup>ふ<sup>る</sup>安<sup>あ</sup>美<sup>み</sup>

様<sup>や</sup>の<sup>の</sup>仕<sup>し</sup>と<sup>と</sup>仕<sup>し</sup>と<sup>と</sup>新<sup>しん</sup>

く<sup>く</sup>今<sup>いま</sup>近<sup>ちか</sup>く<sup>く</sup>小<sup>こ</sup>を<sup>を</sup>肉<sup>にく</sup>

年<sup>ねん</sup>と<sup>と</sup>出<sup>だ</sup>して

由<sup>ゆ</sup>ど<sup>ど</sup>ー<sup>ー</sup>と<sup>と</sup>ニ<sup>ニ</sup>ー<sup>ー</sup>と<sup>と</sup>南<sup>なん</sup>

芝<sup>し</sup>家<sup>か</sup>林<sup>りん</sup>小<sup>こ</sup>林<sup>りん</sup>燈<sup>とう</sup> 茶<sup>ちや</sup>

宗<sup>そう</sup>女<sup>にょ</sup>も<sup>も</sup>行<sup>ゆ</sup>ふ<sup>ふ</sup>出<sup>で</sup>候<sup>こう</sup>時<sup>とき</sup>

布<sup>ふ</sup>子<sup>こ</sup>忌<sup>き</sup>て<sup>て</sup>来<sup>き</sup>候<sup>こう</sup>仕<sup>し</sup>人<sup>にん</sup>

い<sup>い</sup>子<sup>こ</sup>と<sup>と</sup>し<sup>し</sup>ら<sup>ら</sup>は<sup>は</sup>り<sup>り</sup>あ<sup>あ</sup>ま

一<sup>い</sup>座<sup>ざ</sup>の<sup>の</sup>信<sup>しん</sup>の<sup>の</sup>被<sup>ひ</sup>は<sup>は</sup>候<sup>こう</sup>

土<sup>ど</sup>道<sup>どう</sup>の<sup>の</sup>が<sup>が</sup>れ<sup>れ</sup>る<sup>る</sup>緋<sup>ひ</sup>や<sup>や</sup>子<sup>こ</sup>

お<sup>お</sup>見<sup>み</sup>逢<sup>あ</sup>ひ<sup>ひ</sup>て<sup>て</sup>来<sup>き</sup>候<sup>こう</sup>時<sup>とき</sup>

足<sup>あ</sup>下<sup>げ</sup>の<sup>の</sup>寸<sup>すん</sup>舞<sup>まい</sup>子<sup>こ</sup>の<sup>の</sup>原<sup>げん</sup>

そ<sup>そ</sup>と<sup>と</sup>一<sup>い</sup>寸<sup>すん</sup>と<sup>と</sup>さ<sup>さ</sup>る<sup>る</sup>子<sup>こ</sup>

石<sup>い</sup>や<sup>や</sup>の<sup>の</sup>口<sup>くち</sup>と<sup>と</sup>井<sup>い</sup>の<sup>の</sup>口<sup>くち</sup>

多小八百也小八母不願い

ても多願い

行て遠し〜笑の顔

笑やの遠知く白紙や

古道今やの我援法

後原ハ沼新サぬ香の和

天乃以才

小利の多下とる十日

鬼佛責泥龜也

多毛小責是丸子

他即て指子中一團

春服の束ととつ人

手空一法と並殺法

ても殺也

坑埃又中舌石也

浮名笑止る纏子の所

ても殺也

毛弓の服とぬく季

垢子洗とる門

質也の服授く器子

手のひら

嫌々森子送るせよ

我子怪我は新や下

手がひら

怪我は新や下

未味が付き

未味が付き

来や新小来の便毒

戸の明下森の

左出の亦再小記と

し

靴の底小照

左出の亦再小記と

皆代名物

法市の端子子供

あつた

おまのこま

おまのこま

おまのこま

おまのこま

耳みみはく

や 節ふしと咒まじふ角かどカ多

味あじいへりてすくく子こ

能よく振ふるて

正ただ初はつ我が初はつは日ひの端はた

と劫やく至いたの返かへく初はつ家か後ご

大おほ好このく初はつ入い果は及およるや

弟あに之の進すす切きり一ひと名な

穴あなや美うつくし八はち寸すんぬ給たまふ

付つる花はなかまうま工たく船ふねや

志こころんくと

大おほきふ夢ゆめふ者もの欲ほし

相あひの象しやうの表ひょう社しゃ勢せいの屋や

文ぶん解かいの量りやうえり小こ傳でん

浮う世よ小こ橋はし小こ橋はし時とき

昼ひる八はち蟬せみの音ねすく孔あなス

以もるて通とほす是こゝ長なが也なり

斜かたの月つきえい深ふかの案あん

磁ま石いしが打うちつ菖あやむ蒲か菜さい端はた

入い日ひ織おり込こ味あじ先まへ撮と

一三五

〇七四



風月の夜ぬく来家

三夜く出

始末おりる女走

の終お持やせ

佛極賞の掛

風豆の由ふ

呉崎の舟の戸前

る自考て来の推

時ふ

夜をうとぬつと獲

笑や岩子新坊

四嫌ふて

大の退い縁も遠入

面玉の字ふらる古

二遍解とて奥の

心も又も

園の控、出は言や

物でらへる登と人

下ふ是子物日

鉄北千提て来

か 判 言 止 夜 披 示  
弁 受 の 臨 目 止 那

ひらいて

賢 の 所 統 一 笑 の 出  
四 谷 の 筆 加 舟 ぐ ね こと

ハシと

太 夫 の 入 子 有 袖  
命 の 主 出 け ぶ 一 所  
嘆 子 入 源 後 業  
字 小 味 知 て 原 繼 子

ハシと

止 那 と 卷 一 巻 他 行  
筆 旨 の 一 巻 之 ありや  
柔 原 佐 一 一 巻 之 あり  
任 寺 の 早 法 之 巻

ひつと

匠 の 奥 掃 の 中 時 行  
皆 筆 が 一 巻 之 あり  
婦 の 入 一 巻 之 あり  
漢 城 小 一 巻 之 あり

七んだく

子 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸

樹 遠く の ほく 三 物 風

脊 遠く の ほく 三 物 風

脊 遠く の ほく 三 物 風

月が照って

糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸

糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸

糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸

糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸

おてね

酒 香 舞 大 家 花 娘

舞 舞 舞 舞 舞 舞 舞 舞 舞 舞

舞 舞 舞 舞 舞 舞 舞 舞 舞 舞

舞 舞 舞 舞 舞 舞 舞 舞 舞 舞

もどろり

川 心 平 文 意 好 好 好

名 狭 の 味 七 巻 何 何

紀 品 何 何 何 何 何 何 何 何

い ふ 心 礼 又 舞 舞 舞

持てて下

多し林さ一突し言

度中、民市に遊小舟

付てれ人の俗又うまは舟

二流十舟さう候 親に

名時、の贊、お特、う

聲入、指、う、在、系、う

う、小、佃、也、い

子、三、十、九

船、の、出、る、徳、候、所

屏風の内小紙に

持る候

口の重、お、女、医、者

之、も、う、鏡、も、垂、流、ハ、殿

舟、安、下、り、早、い、若、上、り

もどろく

鏡、小、舟、も、清、出、れ

五、刺、は、も、へ、て、指、下、り

舟、折、て、指、を、指、之、舟

船、系、留、し、る、膳、入、り

世に人の心

親の心は子に似たり

名を冠せしむるは親の徳

名を冠せしむるは親の徳

もせい

唯とてて居るは判

笑人の心は親の徳

笑人の心は親の徳

あられり

親の心は子に似たり

親の心は子に似たり

親の心は子に似たり

親の心は子に似たり

親の心は子に似たり

親の心は子に似たり

親の心は子に似たり

親の心は子に似たり

親の心は子に似たり

親の心は子に似たり

親の心は子に似たり

ハモテ 尾下 其 業 是 也 の 服  
際 の 死 後 七 探 十 日 備

世 傳 好 下

今 亦 名 の 唱 風 号 也 親 江

彈 一 大 事 乃 業 白 髪 守 子

十 日 休 息 園 儀 儀

集 つ れ 甲

進 別 亦 逢 不 探 之 也

處 之 時 亦 死 乃 考 之 於 此

亦 亦 亦 亦 亦 亦

ハ ハ 然 々 々 々 々 々 々 々 々

持 于 金 等

亦 亦 尾 之 出 寸 燭 之 庭 出

蓋 且 改 之 出 寸 二 年 切

和 也 燭 花 也 言 實 矣

亦 亦 亦 亦

采 亦 亦 持 亦 亦 亦 亦

編 場 之 遠 入 亦 亦 亦 亦

亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦

亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦

牙子の下は子社  
日傘の志中人と

かー照

逸子と舞ふ大

後妻の進寸明の二味

上里

尾のあけの

とろの進入

とく

土の美の

小使のい

探りては

紋ハ柄

浪先七分

内で行

とく

池の井

土の

運花下

舞の惚

安か

片ハ 筋 振 人 呼

目 半 玉 入 子 泥 龜 也

徳 や 主 の 子 指 子

書 の 下 意 似 せ せ

同 一 柄 の 子 科 理

和 当 二 佩 二 系 録

後 の 持 後 小 慮 太 丈

太 丈 三 慮 かく れ 人 不

太 丈 三 慮 かく れ 人 不

此 乃 後 子 中 内

一 丈 柄 寸 五 形 の 岳

糸 下

糸 下 細 工 小 忙 多 糸

いろ け 糸 下 喜 煙 草

糸 下 見 守 子 の 糸 下 子

糸 下

糸 下 の 体 多 糸 の 糸

糸 下 の 古 子 糸 下 糸 下

糸 下 子 下 糸 下 糸 下



書籍賣捌問屋

大 阪 書 林	和 州 八 木	全 明 石	全 加 古 川	全 檜 州 姫 路	雲 州 松 江	藝 州 廣 島	全 博 多	全 筑 前 福 山	全 阿 蘇 島	全 全	全 全	全 全	全 全	全 全	土 州 高 知 尾			
梅 藤 原	藤 藥 師 寺	前 田	伊 藤 野	山 園 水	荒 木	右 田	高 田	山 崎	林 世 渡 谷	黒 崎	黒 崎	澤 本	山 中	近 藤	尾			
龜 七 版	善 市 平	卯 三 郎	得 七 郎	和 七 郎	長 三 門	喜 二 郎	喜 久 郎	芳 郎	登	谷 助	文 吉	源 助	精 二	俊 三	駒 吉	專 助	烏 吉	民 藏

椿月

終  
 八口  
 煉  
 不  
 心  
 樓  
 續  
 く  
 日  
 の  
 意

